

(様式 2)

議事録番号

提出 2007年 5月 22日

会合議事録

研究会名：顕微ナノ材料科学

日 時：2007年1月14日

場 所：広島国際会議場

出席者：(議事録記載者に下線)

越川孝範、大門寛、木下豊彦、郭方准、渡辺義夫、尾嶋正治、小林啓介、小野寛太、小嗣真人等 計 19名

議題：東大の新ビームライン(東京大学物質科学アウトステーション)計画におけるビームラインの具体的な建設設計プランと設置予定測定装置の概要

議事内容

1. まず委員である新ビームライン計画の責任者である東大の尾嶋教授から東京大学物質科学アウトステーションの計画内容を約一時間にわたって説明を受けた。そのあと、出席者から多くの質問と提案が行われた。

その内容は以下の通りである。

(1) 全国共同利用の使用形態に対する質問。東大と東大以外のユーザーに対する開放度はどのようになっているのか。

—基本的にこのビームラインは全国の利用者に開放するという前提で計画を進めている。

(2) ビームラインの仕様に関する質問。

—年度ごとにステップバイステップで建設を進める。これは年度ごとに予算申請をしながら進めざるを得ない。アンジュレーター建設も一挙に最終仕様まで持っていくことは難しい。当面は変更の特性については十分な性能を確保することは出来ないが、徐々に整備を進める。等の説明があった。

(3) 設置予定装置に関する質問と要望

—最終設置装置に関してはまだ最終的に決まっていない。これから議論を行うにつれていく必要がある。その場合も予算との兼ね合いになるので、どの装置を優先して設置を進めるかについても議論を進める必要がある。

(4) 設置装置に関する本委員会の提言

—設置装置に関しては今後本委員会の意見も取り入れるように準備委員会で議

論をする予定である。それを予算要求にも反映することになる。

以上のような議論を踏まえて以下のような成果が得られた。

1. 2007年4月に設置予定装置ごとに準備委員会が東大物性研で開催された。本委員会の委員も主体的にその委員会に出席し意見を述べた。これらの意見をもとに予算要求案が作られることになった。